

内閣	国内政治	軍部の動き	対外関係
^{1929.7~31.4} 浜口雄幸 (民政党)	井上財政 (蔵相井上準之助) →昭和恐慌 [a.]問題 →浜口雄幸狙撃事件		
^{1931.4~31.12} ② 若槻礼次郎 (民政党)	満州事変不拡大方針	^{1931.3} 三月事件 (桜会橋本欣五郎) ↓ →宇垣一成の首相擁立を計画	¹⁹³⁰ ロンドン海軍軍縮条約
^{1931.12~32.5} 犬養毅 (政友会)	高橋財政 (蔵相高橋是清) →恐慌脱出・重化学工業の発展	¹⁹³² [c.]事件(井上日召) →井上準之助・団琢磨暗殺	^{1931.9} 柳条湖事件 …関東軍の謀略 ⇒[b.]の始まり
^{1932.5~34.7} [e.] (海軍穏健派)	「憲政の常道」の終焉 「 挙国一致 」内閣の成立 ・時局匡救事業・農山漁村経済更生運動 ⇒農業恐慌からの農村救済策 ・滝川事件…京大教授滝川幸辰処分 ・帝人事件(1934)…贈収賄疑惑で閣僚逮捕	¹⁹³² [d.]事件 →犬養毅首相暗殺	¹⁹³² 満州国建国宣言 (執政溥儀)
^{1934.7~36.3} [g.] (海軍穏健派)	天皇機関説問題(1935) →[h.] : 天皇機関説否定 蔵相高橋是清・内大臣斎藤実・ 陸軍教育総監渡辺錠太郎暗殺	↓ 皇道派 : 青年将校中心、直接行動 VS 統制派 : 中堅幕僚層中心、合法的に 総力戦体制構築を図る	^{1932.9} [f.] : 満州国承認 国際連盟脱退通告 (1933.3) 塘沽停戦協定 (1933.5) ⇒満州事変の終結 満州国帝政移行 (皇帝溥儀)
^{1936.3~37.1} [k.] (外交官)	[l.]の復活 国策の基準 …南北併進論 馬場財政 …軍備大拡張 ・政党の軍部の政治介入への批判 (斎藤隆夫「肅軍演説」 浜田国松「腹切り問答」→内閣総辞職)	↓ 相沢事件 (1935) →統制派[i.]暗殺 [j.]事件(1936) 皇道派青年将校のクーデタ を起すが反乱軍として鎮圧	華北分離工作開始 (1935) ワシントン海軍軍縮条約破棄 をアメリカに通告
^{1937.2~37.6} 林銑十郎 (陸軍軍人)	結城財政…「軍財抱合」 →政党と対立し総辞職	↓ 統制派が陸軍を掌握 陸軍の政治介入の高まり	ワシントン・ロンドン 海軍軍縮条約失効 (1936) 日独防共協定の成立 (1936)
^{1937.6~39.1} [r.] (貴族院議員)	第1~3次近衛声明 →和平失敗、日中戦争の長期化 ↓ ・総力戦体制の構築 [t.] (1938) 企画院 の設置…内閣直属の物資動員計画機関 国民精神総動員運動	↓ [p.]内閣不成立	[q.] (1936) →張学良が蒋介石を監禁 ・ 盧溝橋事件 (1937) →[s.]の始まり ⇒ 第2次国共合作 日本軍 南京占領 →蒋介石は 重慶 で抗戦 ・日独伊防共協定 (1937)

内閣	国内政治	軍部の動き	対外関係
^{1929.7~31.4} 浜口雄幸 (民政党)	井上財政 (蔵相井上準之助) →昭和恐慌 [a. 統帥権干犯] 問題 ← →浜口雄幸狙撃事件		¹⁹³⁰ ロンドン海軍軍縮条約
^{1931.4~31.12} ② 若槻礼次郎 (民政党)	満州事変不拡大方針	^{1931.3} 三月事件 (桜会橋本欣五郎) ↓ →宇垣一成の首相擁立を計画 ^{1931.10} 十月事件 (桜会橋本欣五郎) ←	^{1931.9} 柳条湖事件 ...関東軍の謀略 ⇒[b. 満州事変] の始まり
^{1931.12~32.5} 犬養毅 (政友会)	高橋財政 (蔵相高橋是清) →恐慌脱出・重化学工業の発展	[c. 血盟団] 事件 ¹⁹³² (井上日召) →井上準之助・団琢磨暗殺	¹⁹³² 満州国建国宣言 (執政溥儀)
^{1932.5~34.7} [e. 斎藤実] (海軍穏健派)	「 挙国一致 」内閣の成立 ← 「憲政の常道」の終焉 ・時局匡救事業・農山漁村経済更生運動 ⇒農業恐慌からの農村救済策 ・滝川事件...京大教授滝川幸辰処分 ・帝人事件(1934)...贈収賄疑惑で閣僚逮捕	[d. 五・一五] 事件 ¹⁹³² →犬養毅首相暗殺 ↓ 皇道派 : 青年将校中心、直接行動 VS 統制派 : 中堅幕僚層中心、合法的に総力戦体制構築を図る	[f. 日満議定書] : 満州国承認 ^{1932.9} 国際連盟脱退通告 (1933.3) 塘沽停戦協定 (1933.5) ⇒満州事変の終結 満州国帝政移行 (皇帝溥儀)
^{1934.7~36.3} [g. 岡田啓介] (海軍穏健派)	天皇機関説問題 (1935) →[h. 国体明徴声明] : 天皇機関説否定 蔵相高橋是清・内大臣斎藤実・ 陸軍教育総監渡辺錠太郎暗殺	↓ ・相沢事件 (1935) →統制派[i. 永田鉄山] 暗殺 [j. 二・二六] 事件(1936) 皇道派青年将校のクーデタを起すが反乱軍として鎮圧	華北分離工作開始 (1935) ワシントン海軍軍縮条約破棄 をアメリカに通告
^{1936.3~37.1} [k. 広田広毅] (外交官)	[l. 軍部大臣現役武官制] の復活 国策の基準 ...南北併進論 馬場財政 ...軍備大拡張 ↓ ・政党の軍部の政治介入への批判 (斎藤隆夫「肅軍演説」 浜田国松「腹切り問答」 →内閣総辞職)	↓ 統制派が陸軍を掌握 陸軍の政治介入の高まり ↓ [m. 宇垣一成] 内閣不成立	ワシントン・ロンドン海軍軍縮条約失効 (1936) 日独防共協定の成立 (1936)
^{1937.2~37.6} 林銑十郎 (陸軍軍人)	結城財政 ...「軍財抱合」 →政党と対立し総辞職		[q. 西安事件] (1936) →張学良が蒋介石を監禁
^{1937.6~39.1} [n. 近衛文麿] (貴族院議員)	第1~3次近衛声明 ← →和平失敗、日中戦争の長期化 ↓ ・総力戦体制の構築 [t. 国家総動員法] (1938) 企画院 の設置...内閣直属の物資動員計画機関 国民精神総動員運動		↓ ・ 盧溝橋事件 (1937) →[s. 日中戦争] の始まり ⇒ 第2次国共合作 ← 日本軍南京占領 →蒋介石は 重慶 で抗戦 ↓ ・日独伊防共協定 (1937)